

## 小さな落とし物が広げた世界

広島県・広島大学附属東雲中学校 2年 平尾 紬希

私には、5歳の弟がいます。保育園に通う弟は、ある日保育園のみんなで近所の公園へ散歩に行きました。その公園は、かつて広島駅～宇品駅<sup>うしな</sup>を結ぶ電車が通っていた線路跡地で、戦時中は兵士や物資等の輸送に活躍した路線でしたが、戦後の復興とともに廃線となったそうです。

弟はその日の晩、「今日ね、保育園のお散歩で、すごい宝物見つけたんだよ！お魚のメダル！」と言いました。お魚のメダル……？私は、ゲームセンターのメダルかおもちゃだろうなどと思い、「ふーん、よかったじゃん。」と言いました。

翌日、保育園の迎えから戻った母が、保育園の掲示板をスマートフォンで撮って見せてくれました。昨日拾ったメダルを保育士の先生方が調べたところ、アイスランドのお金であることが分かり、それを園児に伝えたと、園児たちの頭は疑問でいっぱいになったようで、掲示板には、ひらがなを覚えたばかりのぎりぎり読める園児の字でこう書かれていました。

「あいすらんどのおかねがおちていました。おとしたひとをさがしています。あいすらんどのひとつをしっているひとはとりちーむまできてください！あいすらんどはあいすみたいにつめたいですか。あいすらんどはあいすがいっばいたべられますか。」

私は、「アイスランド」と聞き、ヨーロッパの北の方にある寒い国だよな……と世界地図を探しました。調べてみると、日本から行くには約20時間かかるそうです。夏は太陽が沈まない白夜があり、冬は逆に数時間しか太陽が昇らない国。森がなく、火山や美しい滝や氷河等の大自然と、野鳥や魚の宝庫として知られています。そして弟たちが見つけた魚柄のコインは10クローナ硬貨といい、日本円で約10円で、「ししゃも」の絵が描かれているそうです。その他にも1クローナ硬貨は「タラ」、5クローナ硬貨は「イルカ」、50クローナ硬貨は「カニ」、100クローナ硬貨は「ランプフィッシュ」と、アイスランドの硬貨は海の生き

物のデザインばかりです。私は、アイスランドは緑が少なく豊かな海に囲まれた国だから魚の絵が描かれているのか、と思いました。

他の国の硬貨も気になり調べてみると、動物や植物、偉人の顔、世界遺産、歴史的建造物など、世界には色々な柄の硬貨がありました。お金のデザインは、その国の自然や歴史などを表しているものがたくさんあり、とても面白いと思いました。

弟の保育園では、園児からの質問をきっかけに先生方がいろいろ調べられ、その質問に答えられたそうです。すると、園児たちはどんどんアイスランドに詳しくなり、数日後、園児たちが描いたアイスランドの国旗や、かわいいパフィンの絵、グレードの高い質問などが掲示板に貼られていました。

「おみせであいすらんどのししゃもをみつけたよ！おいしかったよ。みんなもたべてね」「あいすらんどでにんきのとり、ぱふいんはおさかなをたべるよ」「あいすらんどではおーろらがみれます。おーろらをみたことがあるひとはおしえてください」「あいすらんどのほかのおかねをみてみたいです。もっているひとはおしえてください」

そして先日、保育士の先生方の感激のお手紙が掲示板に書かれていました。園児たちのこれまでの絵や手紙を先生がアイスランド大使館に送ったそうです。すると、大使館から園児たちにお礼と喜びの電話があり、大使から園児たちに改めてお手紙やパンフレットを送るので楽しみに待っていてくださいとの返事があったそうです。

観光地でも埋立地でもないこの公園に、なぜアイスランドのお金が落ちていたのか、という疑問は消えませんが、この落とし物の「お金」をきっかけに、4・5歳の園児たちは、日本以外の国に興味を持ち、いろいろと想像をふくらませ、国を超えてつながりを広げていました。

お金は、物を買うために必要なもの、というだけではなく、国ごとに異なる、その国だけのオリジナルなものの一つでもあります。園児たちは落とし物のお金から、お金では買えないたくさんのことを学び、思い出を得ることができたと思います。「お金」の力はすごいと思いました。

そしてそれは、保育士の先生方が子供が拾った小さな落とし物を機に、園児としっかり向き合ったからこそ広がった世界だと思います。

私も勝手に自分で基準をつくらず、人として相手の話をしっかり聞き、向き合うようにしたいと思います。それは今回の、小さな落とし物が私にくれた大切なことです。

